

いばらき未来基金 冠助成事業
2015年度花王・ハートポケット倶楽部 地域助成事業
報 告 書

2016年9月

花王・ハートポケット倶楽部

いばらき未来基金運営委員会





あらゆる人の居場所と出番づくりを応援

「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」申請受付中

茨城県新しい公共支援事業のモデル事業として 2012 年に誕生した「いばらき未来基金」は、地域の市民、企業などから寄せられたご寄付を、地域の課題解決に取り組む活動に役立てるため助成します。

花王グループ社員による社会的支援を目的とした「ハートポケット倶楽部」会員の皆様のご寄付を原資として、第 3 回いばらき未来基金冠助成を実施することになりました。

趣 旨

誰もが住みやすい地域をつくるために、あらゆる人の居場所や出番を増やすという『茨城県新しい公共推進指針』¹に沿った市民団体の取り組みを募り、応援して「茨城の未来づくり」を広げるために本助成を行います。

主催者・運営者

主催： 花王・ハートポケット倶楽部、花王 株式会社

企画・運営協力：いばらき未来基金事務局（認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）

助成事業

A. 自助グループづくり支援事業

課題を抱えた人やその家族・仲間が、課題を共有しながら仲間を増やしたり、課題解決に役立つ活動を行うことを、グループの立ち上げ支援も含めて応援します。

（例）家族の病気や介護、子育て、仕事などに関する悩みや、震災で故郷を離れたなど、日頃孤立しがちな人によるサロン、体験の共有や発信、グループづくりなど

B. セーフティネットづくり支援事業

福祉施策・制度による支援が十分に行き届かない方々への、市民が中心となったセーフティネットづくりを応援します。生活困窮者やひきこもり、依存症のある方、外国とつながる児童生徒、いわゆるボーダーにあたる軽度な障がいのある方、その他孤立しがちな人など、誰にでも居場所と出番がある社会づくりのため、組織を超えた交流や新たな連携などの活動に助成します。

（例）ひきこもりがちな方への中間就労の機会づくり、「子どもの貧困」に対応するためにひとり親家庭や外国人とつながる児童生徒を対象とした学習ボランティア、発達障がいのある方のご家族のためのお悩み相談会、虐待やいじめなどを受けた子どもへの支援など

¹ < www.npocommons.org/topics/guideline.html > よりダウンロード可能。



いばらき未来基金 冠助成プログラム

助成対象団体

A. 自助グループづくり支援事業

5 万円/件（最大 1 団体を予定）

生きづらさを感じている人が主体となった活動の実績または計画があり、自分たちの課題を発信したり、仲間を増やそうとしているグループ

B. セーフティネットづくり支援事業

15 万円/件（最大 3 団体を予定）

活動実績や決算、役員、規約に関する情報を公開することができる団体で、活動実績があること。「あらゆる人に居場所や出番をつくる」、「人や地域の絆をつくる」、「協働で地域を良くする」など、「新しい公共」の考え方に沿った取り組みの計画を有している団体

※ 両助成とも助成対象に該当し、平成 27 年 9 月 15 日～平成 28 年 8 月 31 日に実施する活動にかかる費用を対象とします。

申込方法

助成を希望する団体は、いばらき未来基金のウェブサイトより申請書類をご入手ください。

申請期間

平成 27 年 6 月 15 日（月）～7 月 31 日（金）（当日消印有効）

選考方法

第 1 次審査（書類選考）：いばらき未来基金運営委員会が設ける選考委員会で審議します。

第 2 次審査（投票選考）：花王・ハートポケット倶楽部の投票により助成先を決定します。

※ 『茨城県新しい公共推進指針』の具体化と、人の絆の広がりを重視して選考します。

※ 花王社員が関われる活動や、空き家や空き店舗など地域資源を活用した活動などを高く評価します。

※ 必要に応じ、助成申請者に対し提出資料の追加や訪問調査などを行うことがあります。

助成金の交付

平成 27 年 9 月上旬頃に贈呈式を実施します。その後、団体口座に銀行振込により交付します。

※ 個人口座にはお振込みできませんので、ご了承ください。

報告書の提出

助成を受けた団体は、日々の活動状況をいばらき未来基金事務局に随時報告するほか、活動終了後、指定の報告書をご提出いただきます。

申請・お問い合わせ



いばらき未来基金 事務局（認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コムズ）

〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目 1 番 39 号 茨城県労働福祉会館 2 階

☎：029-300-4321

FAX：029-300-4320

e メール：office@ibaraki-mirai.org

ウェブサイト：www.ibaraki-mirai.org

助成対象となった事業

助成コース	事業名	事業概要	団体名	代表者役職名	代表者	助成金額
A. 自助グループづくり支援事業	オレンジサロン事業	過去に児童虐待を受けた当事者のサロン	認定 NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい	理事長	坂本 博之	5 万円
B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業	引きこもり状態にある若者への追跡アプローチ事業	会報の送付、交流会の開催	NPO 法人 キドックス	代表理事	上山 琴美	15 万円
	発達がゆっくりな子どもたちの教育支援プログラム「フォイヤーシュタイン教育プログラム」の導入	教育プログラムの体験ワークショップの開催及びスタッフ学習会の開催	NPO 法人 こどもの育ちサポートステーション	代表理事	大山 吐志	15 万円
	子ども・子育て世代と高齢者がつながる居場所づくり	多世代型の食事会や遊び場の開催	NPO 法人 取手アートプロジェクトオフィス	代表理事	佐野 吉彦	15 万円



事業名	オレンジサロン事業																								
申請コース	A. <u>自助グループづくり</u> B. セーフティネットづくり																								
団体名	認定 NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい																								
実施内容	子ども時代に親などから虐待を受けて育ち、成人後も心の傷が癒えず苦しんでいる人の居場所を開設した。 実施日 毎月第一木曜日 10 時～12 時 毎月第三木曜日 18 時～20 時 <table border="1"> <tr> <td>月</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>参加者(人)</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> </table>	月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	参加者(人)	3	2	1	7	2	4	3	3	1	6	2
月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8														
参加者(人)	3	2	1	7	2	4	3	3	1	6	2														
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	オレンジサロンに参加するようになって 4 年になる方が「精神的に安定し、前向きに自分のことを考えられるようになった。今後は同じ悩みを持つ方の支援をしたい」ということで新しく参加する方がいる時には、参加してフォローしてもらえるようになった。																								
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	1 回の参加者は多くなったとは言えないがこの 1 年、新規参加者が 4 名おり、公的機関からの紹介が多く、オレンジサロンの活動が認知されてきたように思える。																								
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	現在、水戸市赤塚駅前でのみ実施しているが、遠方で来られない方のために県南地区でオレンジサロンを開催する準備を行っている。会場、協力者をあためており、年内開催を予定している。																								
事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	茨城県は自家用車がないと移動に不便な地域も多く、水戸だけでの開催は限界がある。県南地区は開催の目途が立ったが、県西、県北、鹿行地区もあり、県内全域での開催にはまだ時間がかかる。																								
花王・ハートポケット倶楽部へ一言	今回助成を受けたことで、活動の地域を増やすことにつながりました。長く続けることで成果が見えてくる事業なので、今回助成をいただき、大変ありがたく感謝しております。																								
自己評価	A. 目標を超える成果を得ることができた <u>B. ほぼ目標どおりの結果となった</u> C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ()																								

助成事業に関する収支報告書

1. 収入内訳

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
いばらき未来基金助成金 (千円未満切捨)	50,000	
自己資金	31,000	
その他(参加費)		
収 入 総 額	81,000	

2. 支出内訳

(1) 事業実施の場合

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
内 訳		
サロンコーディネート謝金		
@3000×22回	66,000	
消耗品(事務用品・お茶菓子など)	15,000	
助成事業総額	81,000	

事業名	引きこもり状態にある若者への追跡アプローチ事業
申請コース	A. 自助グループづくり B. セーフティネットづくり
団体名	NPO 法人 キドックス
実施内容	これまでキドックスに関わった引きこもり状態にある若者または保護者に対して、以下の a～e に分類した上で、 ・メールまたは往復葉書にて、今後のコンタクトの可否確認と、四季報の送付（第一回目が 2016 年 1 月、以後 3 か月に一回の頻度） ・以後コンタクト可の家庭のみ、3 か月に 1 回四季報送付や、イベントの招待状、お手紙などの送付、メールでのコンタクト等を行った。 a. 一度話したのみで全くコンタクトとれていない家族（17） b. 何度か訪れた後全くコンタクトとれていない家族（6） c. 半年に 1 回などのかなり不定期でコンタクトをとっているが、次の一歩へ移行できていない家族（2） d. 通っていたが今は来ていない（コンタクトは取れる状態）家族（2） e. 卒業した若者（4） ※（ ）内は対象家庭の数
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	a の家庭・・・1 家庭はコンタクトを定期継続可のお返事があり、1 家庭は不可のお返事があり、1 家庭はすでに学校へ進学できた旨のお返事があり、その他は返事なし。 b の家庭・・・2 家庭はコンタクトを定期継続可のお返事があり、その他は返事なし。 c の家庭・・・2 家庭とも四季報を送るたびに、キドックスへ足を運ぶようになる。 d の家庭・・・2 家庭はコンタクトを定期継続可のお返事があり、そのうち 1 家庭は学校へ進学し、もう 1 家庭は家にいるとのこと。 e の家庭・・・2 家庭はメールでの不定期交流をし、2 家庭とも福祉的就労を継続しているとのこと。1 家庭はコンタクトを定期継続可のお返事があり、学校に通い続けているとのこと。1 家庭は電話でやりとりし一般就労を継続しているとのこと。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	やはりキドックスとコンタクトが深かった家庭ほど、返答率が高く、コンタクトが浅かった家庭は返答率も低い結果となった。今回の気づきとしては、半年に 1 回程度はコンタクトを取っている若者は、きっかけをこちらが能動的に作ることがとても有効であり、定期通所に向けて繋がりがやすくなるということがわかり、これまでアプローチが難しかった定期的にコンタクトが取りづらい引きこもりの若者の層に対して、緩やかな関係を継続する 1 つの手段を生み出すことができた。

申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	若者へのアプローチの手段としての、会報作りや送付作業、また、イベント運営の作業などに、通所中の若者が主体的に運営に関わることができた。自宅から出られない若者のことを考えて、どう言葉選びをしたら良いか等を若者が主体で考えて作ることができ、通所中の若者にとっても会報制作の過程が学びと成長と達成感へと繋がった。イベントには、卒業生も遊びに来てくれて、近況についてみんなと相互交流したりと、通所中の若者たちが将来を考えるきっかけにもなった。
事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	一度だけキドックスに相談へ来たがその後コンタクトが全く取れていない層については依然として課題のままである。特にこの層は、保護者が引きこもりの子供をどうにかしたいが本人へどうアプローチしたら良いかわからないという層が多く、当事者へ直接アプローチをかけることが難しい。また、引きこもりと言っても背景や家族関係などは多種多様で、100人の対象者に対して100通りのアプローチを考えることが望ましいのだということを現場で感じた。そのため、今回のような会報送付やイベント招待だけのアプローチ方法にとどまらず、各家庭に合った新しいアプローチ方法を模索していく必要があると感じた。今後は訪問型プログラムなど、さらに新しいことへ挑戦していく予定である。
花王・ハートポケット倶楽部へ一言	私たちの活動に対して、客観的なご意見や評価を花王社員の方からいただき、温かい応援のお言葉も的確なアドバイスも、1つ1つのメッセージが日々の活動への励みになりました。地域の草の根活動をしている私たちのような団体には、このような地域助成があることが大変心強く、ありがたいです。
自己評価	A. 目標を超える成果を得ることができた B. ☒ ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他（ ）

会報作業



■活動報告

石窯ピザパーティ交流会

2015.11.7 場所：キドックスファーム



天候にめぐまれて涼しい初秋の天候の中、キドックスファームにて石窯パーティ交流会を行いました！いつもお世話になっている方をご招待して、キドックスの卒業生や参加中の若者やボランティアさんやご支援者の方や職員など、みんなでワイワイ交流会を兼ねてピザ作り。普段の活動とはまた違った雰囲気、休日をみんなで楽しく過ごしました！皆様への日頃の感謝の気持ちを忘れず、時にはこうやってみんなと交流を深めながら、引き続き活動を頑張っていきたいと思います！



生地からみんなで捏ねて作りました～！



ネギとベーコンのピザ。こちら大人気でした！



トマトソースのピザ。大量に作りすぎて写真はもはやピザ屋さんのよう？！



石窯も、なんとレンガで0から手作りしました！



火力が弱かったのか、焼く時間がとてももかかってしまいました。失敗も成功のうち！



完成したピザたちです。やっぱり手作りはおいしい！とみんなでモリモリ平らげました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

特定非営利活動法人キドックス 住所：〒300-4111 茨城県土浦市大畑1440
電話：070-5088-6436 メール：info@kidogs.org HP：http://kidogs.org

■活動報告

キドックス交流会！手作りソーセージ

2016.5.21 場所：キドックスファーム



毎年春と秋に2回実施しているキドックス交流会を行いました！キドックスに参加していた保護犬の卒業わんこと里親様、いつもお世話になっている方や応援してくださる方、プログラムに参加している若者やご家族、スタッフやボランティアさん、そしてそれぞれご家庭の愛犬のわんちゃん、などなど、たくさんの人と犬がキドックスへ集まってくれました！今回は人も約20名ほど、わんちゃんも10頭以上も参加してくれて、まるで犬のふれあい会のような雰囲気でした（笑）ワイワイみんなでソーセージを手作りし、ホットドックを作り、ポテトフライも手作りして青空の中広い庭でビール片手にランチを堪能できました♪
ご参加くださった皆様、どうもありがとうございました！



ようこそキドックスファームへ～！



最初はちょっとしたミニゲームで皆と交流をしました♪



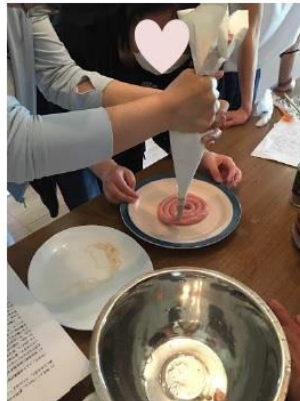
卒業犬グラも、得意の「クロス」で自己紹介！



それぞれわんちゃんができるお得意芸を披露。



ソーセージチーム、難易度高し！でも指示書を頼りに取り組みます。



ひき肉を搾り出して、ソーセージの形に近づいてきました。



4メートルの羊腸なので、こ～んなに長くできました！



ゆでてみると、とってもおいしそう！！

特定非営利活動法人キドックス
電話：070-5088-6436

住所：〒300-4111 茨城県土浦市大畑1440
メール：info@kidogs.org HP：http://kidogs.org

収支報告書

日付	項目	明細	金額
2016/1/8	消耗品費	コピー機	¥5,624
2016/3/25	印刷製本費	インク	¥3,954
2016/4/8	給与手当	スタッフ給与	¥96,000
2016/4/20	通信運搬費	郵便代	¥455
2016/4/21	消耗品費	ハガキ	¥2,674
2016/4/28	通信運搬費	郵便代	¥1,850
2016/5/18	通信運搬費	郵便代	¥362
2016/5/18	通信運搬費	郵便代	¥722
2016/5/31	印刷製本費	インク	¥11,454
2016/5/31	印刷製本費	マット紙	¥2,508
2016/5/31	印刷製本費	インク・マット紙	¥8,861
2016/6/3	通信運搬費	郵便代	¥12,810
2016/6/29	通信運搬費	郵便代	¥510
2016/7/28	通信運搬費	郵便代	¥2,224
		合計	¥150,008

事業名	発達がゆっくりな子どもたちの教育支援プログラム 「フォイヤーシュタイン教育プログラム」の導入
申請コース	A. 自助グループづくり B. セーフティネットづくり
団体名	NPO 法人 こどもの育ちサポートステーション
実施内容	①「フォイヤーシュタイン教育プログラム」体験ワークショップ（6回） 第1回 2015年9月27日 第2回 2016年2月 7日 第3回 2016年4月10日 第4回 2016年5月 8日 第5回 2016年6月12日 第6回 2016年7月17日 ②「フォイヤーシュタイン教育プログラム」スタッフ学習会（2回） 第1回 2016年2月 7日 第2回 2016年6月12日
申請書に記載した 「目標」に対する 実施「結果」	発達凸凹の子ども対象の体験ワークショップ6回とスタッフ学習会 2 回の開催を実施しました。体験ワークショップには幼稚園生から中学2年生まで毎回 10 名前後の子どもたちが参加、スタッフ学習会には、いつもこの子たちに関わっているスタッフ以外にも、臨床心理士の方やカウンセラーの方、保育士など子どもに関わる多くの方たちが参加してくださいました。
申請書に記載した 「目的」に対する 「成果」や地域社会 へのインパクト	この教育プログラムは、根っこを育てるプログラムと言われ、「子どもは必ず変わる！」という信念を持って子どもたち一人一人の発達に合わせた個別の学習プログラムを提供するものです。成果も一人一人違いはあっても、明らかに変化が見られ、今後継続していくことで自立した日常生活ができるようになることが最終目的です。 また、子どもに関わる大人の学習会の参加者の中から、私たちの団体のメンバー 1 人を含む 3 人がベシックの資格を取得してくれました。更に 2017 年 1 月にはスタンダードの資格取得の講習会を地元大洗町で開催出来ることになり、地域での理解と指導体制の強化が図れることとなりました。2017 年度には地元の指導者の下、定期的な開催が可能になると思われます。これは大人のための学習会の大きな成果だと思われます。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	このプログラムの提供により、発達に凸凹が顕著な子どもたちが、普通の社会の中で生き抜いていくための力をつけてくれる事がこの子たちの居場所作りに繋がっていくのかと思います。 また、指導者としての資格取得にチャレンジし、今後このプログラムの普及に力を注いでくれる人たちが出てきたことも、新たな出番作りになっていると思われます。これは申請当初には予測できなかった大きな成果だと思います。

事業実施後の展望 や新たに見えてきた 地域課題	1ヶ月に1回程度、6ヶ月間の開催でも、子どもの取り組みの態度や様子に変化が見られました。今後は地元の指導者を養成し、定期的な開催が出来るようにし、この教育プログラムを広め、発達凸凹な子どもたちが将来自立した生活ができるようになるお手伝いができればと思います。
花王・ハートポケット 倶楽部へ一言	この助成をいただいて、フォイヤーシュタイン教育プログラムという、まだあまり知られていないプログラムを、世の中に広める第一歩をスタートすることができました。心より感謝申し上げます。 今後はこの活動を継続していくことで、普通教室に自分の居場所を持つことのできる子が一人でも増えるよう頑張っていきたいと思います。
自己評価	☒ A. 目標を超える成果を得ることができた ☐ B. ほぼ目標どおりの結果となった ☐ C. 残念ながら目標を達成できなかった ☐ D. その他（ ）

フォイヤーシュタイン教育プログラム活動風景

体験ワークショップ

子どもが天田氏から渡されたワークを実施



親子で「フォイヤーシュタイン」を学ぶ



フォイヤーシュタイン学習会

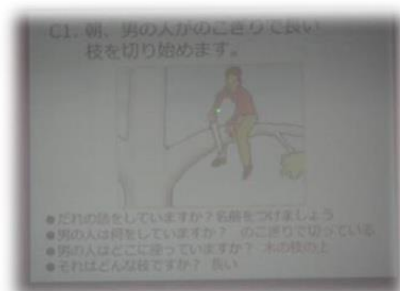
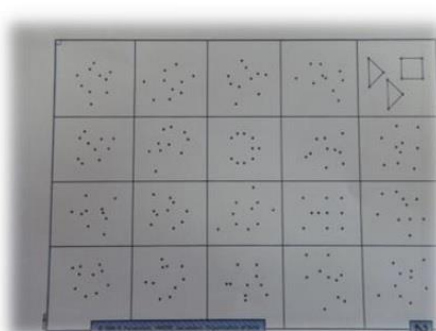
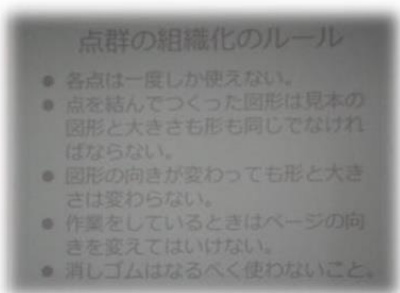
大人が「フォイヤーシュタイン」について学ぶ



大人がグループに分かれて天田氏からワークを渡されて実践



【例】



ファイヤーシュタイン教育プログラム学習会

子どもの認知・情緒の両方に働きかけ、自ら学習する力をつけることのできる教育プログラムです！

発達につまずきや偏りが見られる子どもたちが、社会の中で自立した生活を送ることができるようになるために、このプログラムを学習してサポートしていきませんか？

- 日 時：2016年 7月 17日（日）午前10時～12時
- 場 所：大洗町中央公民館 視聴覚室
- 内 容：『ファイヤーシュタイン教育プログラム』について学ぼう！
- 講 師：天田 武志 氏

●講師 天田武志 氏 プロフィール

ラーニング・クエスト 学習センター 代表 神奈川県在住
ICELP 認定ファイヤーシュタイン IE-Standard Mediator & IE-Basic Mediator
医薬品メーカーの研究者として、技術開発、基礎研究、製品開発などに従事する。その業務の傍ら心と学習の関係や、身体の動きと発達の関連などの学びと研究を続ける。
2011年1月「身体の動きを通して学び力を育てる」をモットーにラーニング・クエスト学習センターを設立。発達につまずきのある子どもたちを中心に学習支援を行なっている。

●ファイヤーシュタイン教育プログラムについて

学習につまずいている子ども、もっと自分の力を伸ばしたい子ども—そんな子どもたちに対し、認知、情緒の両面に働きかけ、自ら学習する力をつける、それがファイヤーシュタイン教育プログラムです。
この教育プログラムを考案したルーヴェン・ファイヤーシュタイン教授は、多くの子ども達との係わりの中で得た膨大な資料と実践経験から、『子どもは必ず変容するので、諦めてはいけません』というスタンスで独自の理論を展開させている教育心理学者です。
ファイヤーシュタイン教育プログラムは認知能力強化教材による媒介学習という手法により、生徒に自ら気付かせ考えさせて、最終的には自立した日常生活や、学習への応用ができるようになることを目標としています。このプログラムは海外で高い評価を受けていて、その成果は2500もの論文や書籍にまとめられ、報告されています。

*参加費：大人 一般 1,000円・NPO法人こどもの育ちサポートステーション正会員 500円

※保護者の方が「NPO法人こどもの育ちサポートステーション」の会員[年会費3000円]の場合は参加費が会員価格となります。ご支援いただける方は当日入会または継続の手続きをとらせていただきます

*参加対象 人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもや、発達につまずきや遅れが見られる子どもに関わっている方、またはその保護者

*申し込み 2016年7月10日（日）までに FAXまたはメールでお申し込みください

*この事業は茨城未来基金『花王・ハートポケット倶楽部 地域助成』を受けて実施しています

07月17日（日）『ファイヤーシュタイン教育プログラム 学習会』に参加します

参加者氏名 _____ 所属団体（あれば記入してください） _____

TEL _____ 連絡のとれる携帯電話 _____

E-Mail _____ （パソコン・携帯電話）どちらかに○

◇申し込み・問い合わせ先：NPO法人こどもの育ちサポートステーション

FAX 029-229-1221 メールアドレス：kss.ibaraki@gmail.com

*問い合わせTEL 090(8806)4733（NPO法人こどもの育ちサポートステーション 代表 大山）

人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもとその保護者のための

みんな いい♡ 2016

発達の違いが顕著で友達の輪の中でうまくやっていけない子どもたちが、生きぬく力を育てるためのサポートをする教室です。同じような悩みを持つ保護者同士のネットワークづくりもできます！

● 3回目

日 時：2016年 7月17日（日）午後1時30分～3時

場 所：大洗町中央公民館 視聴覚室

内 容：『フォイヤーシュタイン教育プログラム 体験ワークショップ』

講 師：天田 武志 氏

●講師 天田武志 氏 プロフィール

ラーニング・クエスト 学習センター 代表 神奈川県在住

ICELP 認定フォイヤーシュタイン IE-Standard Mediator & IE-Basic Mediator

医薬品メーカーの研究者として、技術開発、基礎研究、製品開発などに従事する。その業務の傍ら心と学習の

関係や、身体の動きと発達の関連などの学びと研究を続ける。

2011年1月“身体の動きを通して学ぶ力を育てる”をモットーにラーニング・クエスト学習センターを設立。

発達にさまざまな課題のある子どもたちを中心に学習支援を行なっている。

●フォイヤーシュタイン教育プログラムについて

学習につまずいている子ども、もっと自分の力を伸ばしたい子ども—そんな子どもたちに対し、認知、情緒の両面に働きかけ、自ら学習する力をつける、それがフォイヤーシュタイン教育プログラムです。

この教育プログラムを考案したルーヴェン・フォイヤーシュタイン教授は、多くの子ども達との係わりの中で得た膨大な資料と実践経験から、『子どもは必ず変容するので、諦めてはいけない』というスタンスで独自の理論を展開させている教育心理学者です。

フォイヤーシュタイン教育プログラムは認知能力強化教材による媒介学習という手法により、生徒に自ら気付かせ考えさせて、最終的には自立した日常生活や、学習への応用ができるようになることを目標としています。このプログラムは海外で高い評価を受けていて、その成果は2500もの論文や書籍にまとめられ、報告されています。

*参加費：小人（一人） 会員 200 円・非会員 500 円 （保護者は見学となります）

※保護者の方が「NPO 法人こどもの育ちサポートステーション」の会員[年会費 3000 円]の場合は子どもさんの参加費が会員価格となります。ご支援いただける方は当日入会または継続の手続きをとらせていただきます

*参加対象 普通学校に通い、人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている児童や、学習につまずきを感じている児童（保護者の方は見学できます）

*持ち物 筆記用具・飲み物

*申し込み 2016年7月10日（日）までに FAX またはメールで欠席の場合も必ず返信をお願いします

○7月17日（日）『フォイヤーシュタイン教育プログラム 体験ワークショップ』

出席 ・ 欠席 （どちらかに○印） 出席者 小人 名

児童氏名 _____ 小・中 _____ 年 保護者氏名 _____

TEL _____ 連絡のとれる携帯電話 _____

E-Mail _____ （パソコン・携帯電話）どちらかに○

◇申し込み・問い合わせ先：NPO 法人こどもの育ちサポートステーション

FAX 029-229-1221 メールアドレス：kss.ibaraki@gmail.com

*問い合わせ TEL 090（8806）4733（NPO 法人こどもの育ちサポートステーション 代表 大山）

2015花王助成金収支報告

収入

助成金	150,000
-----	---------

収入合計	150,000
------	---------

支出

講師謝金	子どもの体験ワークショップ	2015/9/27	12,000
講師交通費		//	8,000
講師謝金	子どもの体験ワークショップ 大人の学習会	2016/2/7	27,000
講師交通費		//	8,000
講師謝金	子どもの体験ワークショップ	2016/4/10	12,000
講師交通費		//	8,000
講師謝金	子どもの体験ワークショップ	2016/5/8	12,000
講師交通費		//	8,000
講師謝金	子どもの体験ワークショップ	2016/6/12	12,000
講師交通費		//	8,000
講師謝金	子どもの体験ワークショップ 大人の学習会	2016/7/17	27,000
講師交通費		//	8,000

支出合計	150,000
------	---------

事業名	アートを媒介とした子ども・育て世代高齢者がつなぐ居場所づくり
申請コース	A. 自助グループづくり B. セーフティネットづくり
団体名	NPO 法人 取手アートプロジェクトオフィス
実施内容	いこいのこども食堂 実施日：①2015年8月16日（火）、②8月28日（日） 参加者数：①子ども10名・大人14名、②子ども20名・大人18名 内容：①紙工作の花・箸置き・箸袋づくり、こども食堂の看板づくり、食事（カレーライス・ふかし芋） ②紙工作の花・箸置き・箸袋づくり、ステンドグラスづくり、じゃがいも植え付け、食事（三食丼、豚汁） あそびにいこいの！ 実施日：2015年7月16日（土） 参加者数：総来場者数40名、うちワークショップ参加者数15名 内容：ダフナ・アヴィン「Travelling Theater 旅する劇場」（年齢に合わせた様々な素材を使ったパペットづくり／あそび、大橋里恵「あそびとおしゃべりのひろば」（助産師による子育て相談）、「いこいのカフェ」（地域住民ボランティアによるカフェスペース）
申請書に記載した「目標」に対する実施「結果」	こども食堂ワークショップは、「色を交換」することでコミュニケーションが生まれる紙工作や、次の開催のために食材（じゃがいも）を植えるなど、循環や他者とのつながりを意識する内容を実施、多くの子どもたちが楽しんで取り組んだ。また、地域で継続してこども食堂を開くためのスタートアップとして、参加者が誰と、どうして来場し、どのように過ごすのか、次の開催につなげるための様々な分析材料を得ることができた。 あそびにいこいの！では、住民ボランティアが来場した子どもと遊び、保護者と会話をし、場の原動力になった。イベント当日の、子どもや若い保護者でにぎわう様子や、それ以降設置しているオムツ替えベッドや幼児用おもちゃが外から見えることもあってか、いこいの＋TAPPINOの通常開館日にも、以前よりも子育て世代の利用者がみられるようになった。
申請書に記載した「目的」に対する「成果」や地域社会へのインパクト	こども食堂では、活動の支援者（ボランティア）募集に対して、多様な方々から応募があった。行政や議員からの問い合わせ・視察も多くあった。全国的なこども食堂「ブーム」の最中だったことの影響もあるだろうが、それでも、子どもの貧困という課題に心を向ける人たちが集まり、取手市内で初のこども食堂を始められたことは、小さくない一歩であると考えます。 あそびにいこいの！では、広報物を市内全ての幼稚園・保育所・子育て支援施設に配布したことで、高齢者利用者のイメージが強いいこいの＋TAPPINOについて「子ども・子育て世代が利用できる施設」としての認識

	を広める契機となった。
申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？	地域の高齢者・主婦・リタイア世代にとっては、両企画とも、自らのスキルや人生経験を生かせる「出番」が多かった（子育てや料理など）。特にこども食堂では、高校生、地域の小学生の親、隣接市在住の主婦、園芸が得意な地域住民など、取手アートプロジェクトとしての普段の活動＝アートの切り口だけでは接点を持てなかった方々と活動することができた。 自身も父・母であり、子ども・子育て世代を取り巻く環境について共通の問題意識をもつアーティストや実践者は、参加者に寄り添い、その個性を生かした表現活動を手助けする牽引役となった。 子ども・子育て世代にとっては、居場所としてのいこいの＋TAPPINOの存在を知ってもらうためのきっかけとなった。
事業実施後の展望や新たに見えてきた地域課題	いこいの＋TAPPINOの利用者・ボランティアスタッフのうち、子どもが好き・関心がある・問題意識を持っている一部の方々の積極的参画を得て、今回の企画は実現した。利用者・ボランティアスタッフの中には、子どもが苦手であったり、迷惑だと感じる方もいる。今後、そうした方々と丁寧に対話を重ねながら、互いに排除することなく多世代が共存できる拠点づくりを目指していく必要がある。 また事業を実施する中で、近隣の外国人世帯の存在、日本人コミュニティとの分断や、貧困を抱えている可能性も見えてきた。特にこども食堂では、今後こうした人たちにアプローチできる可能性があると感じている。
花王・ハートポケット倶楽部へ一言	あたたかいご支援をありがとうございました。採択いただいた際の会員のみなさまからのメッセージはとても励みになり、その思いを受けて活動してきました。物心両面の、血の通ったご支援のかたちだと感じております。
自己評価	A. 目標を超える成果を得ることができた ☒ B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他（ ）

いこいのこども食堂



あそびにいこいの！



いこいの回

こども食堂



たねをまこう、ごはんをたべよう。

なつやすみの2日間だけ井野団地にオープンする「食堂」があります。

こどもがつくる、こどものための食堂です。

テーブルやおへやのかざりつけをしたり、やさいをそだてたり。

食堂づくりがおわたたら、おなかいっぱい、あたたかいごはんをたべましょう。

ひとりで来てもいいよ。家族や、だれかと来てもいいよ。

おとなのかたも大歓迎。



※2回ともおなじ内容です

1回目

8月16日(火) 11:30~13:30

2回目

8月28日(日) 11:30~13:30

11:15から
会場にはいれます

場所

いこいの+TAPPINO 井野団地3街区ショッピングセンター ぐるぐるのある公園のところ

参加費

こども~中学生ひとり200円 / 高校生~おとなひとり500円

1. 食堂をつくる

- ・テーブルのかざりつけ
お花と花びんづくり
ランチョンマット・はしおき・はしぶくろづくり
- ・おへやのかざりつけ
ステンドグラス・かんばんづくり
- ・やさいのじゅんぴ
タネをまく／プランターづくり

◎いっしょにつくる人：浅野 純人さん(美術家)



2. ごはんをたべる

みんなでかざりつけた食堂で、地域のおとなの人たちが
つくってくれたごはんを、いっしょにたべます。
(先着順。なくなったら、閉店します。)



このチラシを手にとったおとなの方へ
「いこいのこども食堂」を、
いっしょにつくりませんか？

メニューの検討や当日の調理、食材の提供など、お手伝いしていただける方を募集しています。
取手アートプロジェクト(0297-84-1874 / tap-info@toride-ap.gr.jp) までお問い合わせください。

お問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部

(事務局 特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス)

〒300-1522 茨城県取手市高須2156

TEL/FAX: 0297-84-1874 (TELのみ: 火・金 13:00-17:00)

E-mail: tap-info@toride-ap.gr.jp Web: www.toride-ap.gr.jp/

主催 取手アートプロジェクト実行委員会

(取手市、東京芸術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、公益財団法人

取手市文化事業団、一般社団法人茨城南青年会議所、

取手美術作家展、特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス)

特定非営利活動法人取手アートプロジェクトオフィス

協力

いこいの+TAPPINO運営委員会/あーと屋工室/取手市ネットワーカー等連絡協議会

助成

2015年度いばらき未来基金冠助成(花王・ハートポケット倶楽部 地域助成)



TORIDE ART PROJECT
OFFICE

取手アートプロジェクト

いこいの+TAPPINO-classrooms-

あそびに

0～6才の子どもたちと家族でたのしむのびのびかん

いこいの!

2016年7月16日(土) 13:00～16:00

[場所] いこいの+TAPPINO 取手市井野団地3-19-104井野ショッピングセンター内

※ 団地内には駐車場がございません。お車で越しの場合はご協力店舗「マスタ取手店様」駐車場(奥側)をご利用ください。

[対象年齢] 0～6才のお子さんとそのご家族

[入場料] ひとり100円 ※小学生以下は無料

体験ワークショップ/

Travelling Theater ～旅する劇場～

いこいの+TAPPINOに「旅する劇場」がやってきました。劇団員は、カラフルな布やビーズでできたお人形。好きな素材でお人形をつくって、劇団に参加してみよう!

講師 **ダフナ・アヴィダンさん** (アーティスト) ◎材料費300円 ◎対象年齢3才以上

*一人での作業がまだ難しいお子さんは、保護者の方がお手伝いください

*0～2才のお子さんは劇を観るための特別席にご招待!



同時開催

会場と同じ広場に面した共同アトリエ
《井野アーティストヴィレッジ》では、
オープンスタジオ2016を開催中!
(11～19時 入場無料・出入自由)

助産師さんと話そう/

あそびとおしゃべりのひろば

助産師として子育て支援に取り組んでいる、
かかんち助産院の**大橋里恵さん**と、子どもを
あそばせながらおしゃべりしませんか。子育て
の中で出会う、小さな不安や心配ごとも、
相談してくださいね。



いこいのカフェ

あそび疲れたら、お茶を
のみながらちょっと休憩。
あやし上手なボランティア
スタッフがお迎えします。

主催 | 特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス

協力 | いこいの+TAPPINO 運営委員会

助成 | 2015年度いばらき未来基金冠助成「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」

TORIDE
ART
PROJECT
OFFICE

就学前の子どもたちとその家族のための、 あそび・話して・体験する一日。

「あそびにいこーの!」は、小さな子どもたちと、そのお母さん・お父さん、
どちらにとっても安心で、居心地のよい場所をつくるための試みです。

お子さんにのびのびアート体験をしてほしい方も。

子育てのちょっとした心配ごとをだれかに聞いてほしい方も。

これからママ・パパになろうとしている方も。

どうぞお気軽に、あそびにきてくださいね。



Travelling Theater ～旅する劇場～

ダフナ・アヴィダン (アーティスト)

1968年 アメリカ合衆国テキサス州ホーストン生まれ。

1995年 イスラエル・エルサレムのベザレル芸術デザインアカデミーを卒業。

現在は、取手市にあるOMONMA Tentでの展示をメインに、絵画、手作りの本、布を使ったオブジェや服、
アクセサリなどを制作しています。いらないものや使われなくなったものを作品の素材にするのが好き。
日々のあらゆることごとから、ひらめきをもたらしています。



あそびとおしゃべりのひろば

大橋 里恵 (かかんち助産院 / NPO 法人「へその緒の会」副代表理事・講師)

保健師学校卒業後、保健師として働いていたのですが、双子を含む4人の子どもたちを授かり、子どもたちの
いのちのあまりの素晴らしさに感動して、助産師になってしまいました。

そしてそれから、3回出産! 3男4女の母として、ワイワイガヤガヤ楽しく暮らしています。

幸せいっぱいゆるゆる育児のことならおまかせを! 育児って、なんでもありです。でも、毎日の育児の中
では、不安や辛いこともたくさんありますよね。少しでもほっとしていただけたら、うれしいです。

お会いできることを楽しみにしております。

いこーの + TAPPINO について

いこーの + TAPPINOは、地域のさまざまな人が集まり交流する中で「自然に見守る/見守
られる」状態ができることを目指す「お休み処」事業と、取手アートプロジェクト《アートの
ある団地》事業の拠点です。平日10～16時は、お茶を飲みながらのんびりできるコミュニティ
カフェ (wi-fiあります)。時々、アーティストにも出会えます。年間を通じて、さまざまな催しも
行っています。情報は取手アートプロジェクト web ページや facebook で!

＝classrooms＝について

いこーの + TAPPINO の内装イメージは「教室」。
井野団地の真ん中、暮らしのただ中に、のびのび・自由に・安全に・
心を動かすことを学ぶための教室がときどき現れます。家でも・学校
でも・会社でも教わらないかもしれない大事なことを、見つけに
来ませんか。

取手アートプロジェクトについて

取手アートプロジェクト (TAP=Toride Art Project) は、1999年より市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同で行っているアートプロジェクトです。若いアーティストたちの創作
発表活動を支援し、市民のみなさんに広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことを目指して活動を続けています。2010年度から活動形態
をシフトし、日常に入り込みながら複数年をかけてヴィジョンの実現を図るコアプログラム《アートのある団地》《半農半芸》ほか過年度型プロジェクト展開を行っています。

お問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部 (事務局 特定非営利活動法人 取手アートプロジェクトオフィス)

〒300-1522 茨城県取手市高須2156 TAKASU HOUSE

TEL/FAX: 0297-84-1874 (TELのみ: 火・金 13:00-17:00)

E-mail: tap-info@toride-ap.gr.jp Web: www.toride-ap.gr.jp facebook/twitter もやっています

2015年度いばらき未来基金冠助成プログラム 「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」収支報告書

収入

費 目	内 訳	金 額 (円)
助成金		150,000
参加費	あそびにいいいの！ワークショップ参加費 4,500円 いいいのこども食堂(8/16)参加費 9,000円 いいいのこども食堂(8/28)参加費 16,400円	29,900
	収入合計	179,900

支出

費 目	内 訳	金 額 (円)
消耗品費	あそびにいいいの！ワークショップ材料費	4,283
	あそびにいいいの！ハイチェア、オムツ替えベッド	7,880
	あそびにいいいの！プレイマット	6,680
	あそびにいいいの！幼児用玩具	1,550
	あそびにいいいの！スリッパ、ウェットティッシュ等	4,532
	8/16 いいいのこども食堂 食材費	17,120
	8/16 いいいのこども食堂 ワークショップ材料費	10,794
	8/28 いいいのこども食堂 食材費	8,071
	8/28 いいいのこども食堂 ワークショップ材料費	1,396
会場借上費	8/28 いいいのこども食堂 井野公民館調理室利用	240
	8/28 いいいのこども食堂 井野団地集会所利用	2,400
諸謝金	あそびにいいいの！／大橋里恵	9,000
	あそびにいいいの！／ダフナ・アヴィダン	13,500
	いいいのこども食堂／浅野純人	22,500
広告宣伝費	あそびにいいいの！、いいいのこども食堂 共通 ／kanamo design	30,000
賃借料	8/16 いいいのこども食堂 リユース食器レンタル料 ／NPO法人ワーカーズコレクティブ風車	8,840
	8/28 いいいのこども食堂 リユース食器レンタル料 ／NPO法人ワーカーズコレクティブ風車	6,100
保険料	いいいのこども食堂 傷害・賠償責任保険料／三井住友海上	14,130
	ボランティア活動保険料／取手市社会福祉協議会	5,400
繰越金	2017年3月実施に向けての繰越	5,484
	支出合計	179,900

収支差額(円) 0